



共生地域づくりプロジェクト通信

白石市小原地区

「共生地域づくりプロジェクト通信」を創刊します。

東北福祉大学の森ゼミが取り組む「共生地域づくりプロジェクト」は、中山間地域の関係人口の創出を目指して、大学生と農業、地域づくり、多世代が交流するためのプラットフォームづくりと運営を行っていきます。本プロジェクトが、TOHOKU/宮城の地域課題の解決に向け、新たな結びつきを創造するイノベーションを生み出していく契機になることを目指します。ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

\\ 伝統行事、地域サロンを体感して、同世代へ発信！ //

検断屋敷まつり

白石市小原地区では、年に4回、四季ごとに検断屋敷まつりというお祭りが開催されます。このお祭りでは、ゲームやお楽しみ抽選会など、様々な楽しいイベントがあり、夏は水中スイカ割り、冬は餅つきやだんご刺しなど、季節に合わせたイベントが開催され、四季を体感することができます。また、お祭りの司会は小原小学校の児童が行って、地域の方が我が子のように見守っており、地域住民同士が一体となって小原地区を盛り上げようとしている姿や、地域住民同士の関係性の良さを見て、とても温かい地域であると感じました。

白石市小原地区は、市の中心から少し離れており、少子高齢化が



暑くて熱中症にならないように気をつけよう！

宮城県白石高等学校2年生と一緒に 夏の検断屋敷まつりにて (2023年8月6日(日))

進んで若い世代の人たちが市外へ行ってしまっているような地域ですが、地域住民1人1人がお互いのことを理解し、顔見知りでも仲が良いです。若い世代の人の多くは、都心部へ行きたいと思ってしまうのですが、小原地区のような小さく自然豊かな地域に行くことは、様々な発見があり、とても面白いです。そして、小原地区に行くと誰でも大歓迎されて、おじいちゃん・おばあちゃんのように接して下さるので、実家に帰ったような感覚になりとても楽しいです。ぜひ、白石市小原地区に行きたいと思っただけなら嬉しいです。



だるま落としの最中に 秋の検断屋敷まつりにて (2023年10月29日(日))



小原地区の方と一緒に 冬の検断屋敷まつりにて (2024年1月12日(金))



小原小学校の児童たちと一緒にだんご刺しの準備中 冬の検断屋敷まつりにて (2024年1月12日(金))

鯉のぼり吹き流し

白石市小原地区の材木岩公園、白石川で4月22日に鯉のぼりの吹き流しが開催されました。私は初めて小原へ行ったのですが、地域の皆さんが温かく出迎えてくださり、ありがたかったです。鯉のぼりの設置は朝から行われ、色とりどりで大きさもさまざまなものが約800匹掲げられています。小原地区の住民が東日本大震災の翌年から、復興への願いを込めて全国から集めたこいのぼりを掲げています。また鯉のぼりと共に国の天然記念物である材木岩も見ることができま

す。鯉のぼり設置の際は、とても鯉のぼりの量が多いのと共に設置場所の景色の良さに感動しました。地域の皆さんで行事を行うことには、地域の伝統を守る事や地域のつながりを大切にするという重要な意味があるのだと感じました。4月下旬から5月上旬の連休にかけて鯉のぼりの吹き流しは開催されます。また公園内には古民家を利用したレストランもあり、木の温もりを感じながら食事もしっかりできます。

仙台市などの中心部とは離れていますがそれとは違う自然豊かで白石市にしかない魅力がたくさんある為、ぜひ一度足を運んでください。



鯉のぼり取り付け作業中

地域サロン

白石市では、6地区で月に1回、サロン活動が行われています。

昨年6月に行われた中北サロンでは、手遊びやお手玉を使ったゲーム、じゃんけんリレーなどを楽しみました。この日、サロンに参加するのが初めてで、少し緊張気味の私たち大学生にも、地域住民の方々は温かく迎え入れて下さり、とても楽しく参加することができました。

昨年12月に行われた冷清水サロンでは、始めに白石音頭に合わせて介護予防体操で体を動かしてから、栄養士さんによる減塩につ

いての講話を受けました。その後は、ケーキとお茶を用意して、クリスマス会を楽しみました。「美味しいね～」と皆さんとても笑顔に溢れていました。

白石市には地域住民同士で交流できる魅力ある行事はたくさんありますが、中でもサロンは、より地域の方々と積極的に触れ合うことができる場です。誰でも気軽に参加することができるので、参加したことがなくて不安だという人でも、住民の方々が気さくに接して下さるので、安心して参加することができると思います。特に、学生が参加すると、「若い人が来てくれて嬉しい」と喜んで歓迎して下さいるため、ぜひ色々な世代の人たちに参加してほしいと思います。



みんなで一緒に
“グッパ、グッパ”

手遊びの最中にパシャリ
中北サロンにて(2023年6月18日(日))



楽しい時間は
あっという間だね…

みんなで一緒に
中北サロンにて(2023年6月18日(日))



みんな
音楽に合わせて～!
“いち、に、さん、しー”

体操の最中にパシャリ
冷清水サロンにて(2023年12月20日(水))



今年も楽しい
1年だったね!!

みんなで一緒に
冷清水サロンにて(2023年12月20日(水))

記憶に残った言葉たち

「祭りの雰囲気が変わった」

令和5年度の検断屋敷まつりに学生が参加し、当日来場する小原の子どもたちへの対応を中心にお手伝いを行いました。若い力ならではの軽いフットワークで子どもたちと積極的に関わり、賑わいの一役を担えたように感じています。地域の方からも「大学生が参加していることで、子どもたちも喜んでいました。祭りの雰囲気が若々しくなりましたね」という言葉をいただきました。また、「いつもと異なる人が来ることで新鮮さが出た」「学生が子どもたちに優しく歩み寄る姿勢があり、子どもたちのリアクションも良かった」という声もありました。学生にとっても「これまで地元の行事に関わってきませんでしたが、今回いろいろと参加する中で、地域の人と関わる経験の面白さや大切さに気付きました」「地域の活動を続ける意義を感じました」と、楽しさだけではなく、深い経験ができたようです。半沢さんがお話ししていた「交流＝豊かな生活の条件」という、地域交流の重要性を肌で感じることができました。一年間継続して通い続け、小原の皆さんと交流したからこそこの学びだったと思います。

「地域のモチベーションにつながる」

学生が活動を通して感動したことは、小原地域住民の濃い関係性と活発な活動です。自分が生まれ育った地域はこれほど密接ではなかったと違いを感じたり、検断屋敷まつりが年4回も開催されることに驚いたり、学生たちは小原の皆さんの「人の魅力」を感じたようです。そんな学生の感想に対して半沢さんは「小原は人口が少ないからみんな顔なじみで、濃い関係になるんですよ。地域交流もまつりも、自分たちにとってはずっと続けてきた当たり前のこと。それを地域外の目で『すごい』と評価されると自信がでてきますね。新鮮さが出てくるし、感謝される場面があり、モチベーションにもつながります。学生さんと一緒に活動することで、外の人と交流する大切さを感じました。今後、受け入れる地域側も若い人の多彩な意見を面白がれる柔軟さをもっていきたいです」と、地域住民の刺激になった側面を伝えてくれました。

小原の皆さんから学生への期待！

「今年度は柿渋作品展示の準備や祭りの当日対応などで参加してもらいましたが、来年度はもう一歩踏み込んで一緒に活動できたらいいなと思っています。柿渋の仕込みや作品づくり、さらには祭りの企画立案など、いろいろ挑戦してもらいたいですね。そ

のためにも、地域のことをもっと知ってもらうこと、こちら側のオンライン会議の検討など、やるべきこともたくさんありますが、来年度以降が楽しみです。一緒に頑張りましょう」

森先生よりごあいさつ

今年度、東北福祉大学森ゼミは、小原地区の検断屋敷祭りや地域のサロン活動に参加する機会を頂きました。検断屋敷祭りでは、春の鯉のぼりの吹き流しから始まり、四季折々に工夫されたお祭りも参加させて頂くことで地域を知る機会になりました。小原地区では、実に多くの地域の伝統行事や地域活動が維持されていますが、担い手の高齢化が進む中で、大学生を始めとする若者が地域行事の運営にどう関わることができるか、持続可能な地域づくりの課題が見えてきた1年でもありました。お忙しいところ、本ゼミの活動にご協力いただいた関係者の皆様には、心から感謝申し上げます。

なお、本活動は、令和5年度宮城県パートナーシップづくり助成事業の交付を受けて活動をおこないました。

大学生の声を生かした地域づくり

小原地区振興会長 岩松 義則

東北福祉大学の森ゼミの皆さんが、小原地区に入り地域づくりに参加して頂き感謝します。小原地区では、2019年に中学生以上の全住民アンケートを実施しました。アンケートの結果をもとに「各世代の抱える課題」をテーマに報告会を行い、その際に話題になったのは、「若い世代の生の声を聞け」でした。地区の若い世代が減少する中で、その接点づくりや話し合いを設定しようとしたのですが、思うように参加して貰えないのが実情です。

そんな中、東北福祉大学の学生が、年間を通して小原地区に入って頂き、年4回の検断屋敷祭りから各地区のサロンの活動まで参加してもらいました。今後は、より一層の交流を通して地域づくりに対する本音の意見を聞くことに期待しています。

編集後記

鈴木 愛子 (ゼミ3年生)

白石の活動を通して沢山の人の関わりや、知らなかった白石の風景など多くのことを得ることが出来ました。特に小原での活動では、元気で熱気のある住民と検断屋敷まつりや地域サロンなどを通じて交流することができて自分も元気を貰え、住民の方々が小原地区を盛り上げたいという熱意を受け取り、それを伝えていけたらと思います。このような経験ができて良かったです。

奥寺 ことみ (ゼミ2年生)

今回1年間を通して小原地区で活動をしてきましたが、このように記事にしてみたら、充実して活動ができていたと思いました。私は1つの地域に焦点を当てて活動したことが無かったのですが、1年間活動をして非常に良い経験になりました。

佐藤 未侑 (ゼミ2年生)

私は生まれも育ちも仙台なので、小原地区のことは全く知らなかったのですが、この1年間の活動を通して小原地区の魅力や良いところをたくさん見つけることができました。これを読んで下さっている皆さまにも、小原地区の魅力が改めて伝わっていると良いなと思います。

三橋 萌果 (ゼミ2年生)

一年間小原地区についての活動に取り組むことが出来て良かったです。地域と密接に関わり、活動する事ができ、とても有意義な時間を過ごし、良い経験が出来ました。



Instagram



YouTube